

令和元年度 第2回 生駒市生活支援体制整備協議体
会議録

開催日時	令和2年2月26日(水) 午後3時15分～午後3時50分
開催場所	生駒市役所4階大会議室
参加者 (委員)	澤井委員、高取委員、辻村委員、井上委員、萩原委員、小川委員、崎司委員、林委員、日野委員、中尾委員、平本委員、藤尾委員、藤田委員、北原委員、川端委員、古東委員、原委員、大西委員、岩井委員、大窪委員、辻本委員
事務局	影林福祉健康部長、田中福祉健康部次長、後藤地域包括ケア推進課課長、渋谷地域包括ケア推進課主幹、澤辺地域包括ケア推進課係長、桐谷地域包括ケア推進課係員
傍聴	なし
案件	(1) 住民主体の訪問型サービスの取組について(報告)
資料	資料 介護予防・生活支援サービス(訪問型サービスB)モデル事業について
議 事 の 経 過	
発言者	発言内容
事務局	1 開会 2 案件 案件(1) 住民主体の訪問型サービスの取組について(報告) (資料1に基づき説明)
座長	現在新しいサービスの創出に向けて、第1層コーディネーターの北原委員や、中地区の地域包括支援センターの皆さんは、地域の皆様への働きかけ等をしていただいていると思いますが、現場でどのような声を聞いているか。
委員	意見交換会では、地域の実情を知っている方(老人クラブ等)に集まっただけで意見交換を実施した。地域に助け合いのグループが必要という意見が多かった。自治会等の役職に関わらず、興味関心がある方に声をかけており、27日に養成研修を実施する予定。多数の方に積極的にご参加いただいている。
委員	今回の取組みを通じて地域の積極的な気持ちが実現できれば良い。

委員	意見交換会は意欲の高い方が多く活発な意見が多かったが、具体的な検討はこれからである。
委員	ローレルコート萩の台の支え合いの会について現状を確認したが、需要が少ない状況である。そもそも近所に何かを頼むという考えがないようである、とのこと。萩の台の件は、仕組みを利用するにあたって、制約が多かった。今回違った形式で実施するとのことなので期待している。
委員	意見交換会では積極的な意見が多かった。支え合いコーディネーターなどの担い手を探していく必要がある。
座長	ちょっとした支え合いは、隣近所に頼む文化が必要。ゴミ出し等は特にプライバシーの問題が付きまとう。
事務局	市の事業では、要介護2以上の方を対象としたまごころ収集等もある。
座長	まごころ収集のような市の事業を把握しているコーディネーターが必要である。また、補助金についてはどのように使用するのか。
事務局	支え合いコーディネーターの人件費として補助するが、携帯代金や保険料といった運営費もこちらから出していただくこととなる。
委員	老人クラブ連合会でも、支え合いの仕組みが必要だという意見が出ている。単にクラブではゴミ出しの問題が挙がっている。地域の集まりに参加する方の平均年齢は85歳程度。半数の方は一人暮らしである。 地域の中でゴミ出しなどの支え合いがあるが、依頼者が支援者に甘えているような状況も見られる。当事者同士だとトラブルが多いので、支え合いの仕組みは必要だと思う。ただし、ゴミ出しでも頻度を考えると多くの支え手が必要になると感じる。
委員	31日の意見交換では、ボランティアの有償・無償といった進んだ話も出ていた。今後はさらに話を深める必要がある。
	3 閉会